日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

産休サンキュープロジェクト・ニュースレター

2018年4月号
Vol. 10

「ありがとう！」～キッズクラブ（学童保育）の運営支援～

ナミビア国グルートフォンテイン県での活動のひとつがキッズクラブ（学童保育）の運営です。子どもたちは、学校の授業を終えると、週に2日（火・水）、ナミビア赤十字社グルートフォンテイン支部に集まってきます。そこで、2時間（14～16時）、赤十字ボランティアに見てもらいながら学校の宿題をしたり、衛生・健康について学んだり、おやつ（果物等）を食べたりします。

「おやつ？」と思う読者もいるかもしれません。しかし、クラブに通う子どもたちは貧困層であるため、家庭で食事が作れないことが多く、学校での給食とクラブでのおやつが、一日のうちの貴重な食事なのです。

活動を支えるボランティアへのインタビュー

トーマス ムブルカ
自らも受益者だった経験をもつThomas MBURUKAさん(38歳)。現在は地方政府職員として勤務する傍ら、赤十字の活動を続けています。

なぜ赤十字ボランティアを始めたのですか？

幼少期に母親を亡くし、その後父親は私を置いて、他の女性と再婚しました。14歳くらいの時に、Catholic Aid Actionという団体が私を赤十字支部に連れてきてくれて、就学費や制服、毛布、衛生キットの支援を受けました。大人になったら、赤十字で貧しい子どもたちのために何かしたいと思っていました。

Thomas MBURUKA(トーマス ムブルカ)さん

キッズクラブにはどんな成果がありますか？

学校の制服や文具の支援が行き届いているので、クラブに通う子どもたち全員が学校に通学できていることです。また、一般的に生理がくると、学校に行くのをやめてしまう子どもが多いのですが、クラブの子どもたちは衛生キットを提供してもらっているので、通学を続けることができます。

「キッズクラブで宿題をする」とは、どういうことですか？

家に電気や机がない家庭が多いんです。支部施設には電気も机もあるので、宿題ができます。それに、赤十字ボランティアがいるので、わからない宿題は一緒に考えてあげることができます。決して、子どもたちの代わりに、ボランティアが宿題をするんじゃないですよ！クラブに通っていた子どもたちの中には、大きくなってから大学に進学したり、教職に就いた人もいるんです。

「産休サンキュープロジェクト」とは

出産を機に、生まれたいのちと支えてくれる周囲の人に感謝し、日本で産休・育休を推進し、寄付によって 開発途上国の子どもとお母さんを支援し、一緒に子どもたちを育てていくプロジェクトです。

毎年4月・11月に発行されるニュースレターでは、ご支援いただいている事業報告のほか、親として共感できるような出産・育児の話、子どもを取り巻く保健リスク、日本での子育ての知識/子どものケガの手当と予防/疾病予防等を紹介していきます。

社内外のプロジェクト支援者への配布や、社内報等での啓発、あるいは貴社・貴団体のCSR活動報告等にご活用ください。

2018年2月にナミビアでの活動を視察した菅原直子看護師長からの報告

不法居住地で希望を与え続けるために！

ナミブ砂漠で有名なナミビア共和国の北部に位置するグルートフォンテインは、牛の放牧風景やトウモロコシ畑が広がる緑豊かな町だ。舗装された幹線道路沿いにはドイツ植民地時代の大きな教会や大型スーパーも見られるが、舗装された道路を外れて15分ほど車を走らせると全く別の世界が広がっている。

そこは1990年代の独立の際に紛争を逃れてきた人々や、地方から仕事を求めてやってきた貧しい人々が住み着いた不法居住地で、トタンやビニールシートの小屋がひしめくように連なっている。出生証明がないためにID（身元証明証）が発行されず、ごみを拾って生活している人も多い。IDがなければ学校に通えず、仕事にも就けないからだ。子どもたちはそんな環境下で生まれ、親と同様にごみを拾って生活することになる。そんな負のサイクルが廻っている不法居住地でナミビア赤十字社（ナミビア赤）のボランティアは、子どもの出生証明取得の支援、毛布や生理用品の配布等を行っている。

不法居住地。赤十字はここの住民に対家庭訪問（健康チェック等）や訪問看護を実施している。

IDを持っていない母親が自宅で出産した場合、子どもの出生証明を取得するのは大変な作業だ。しかし、それ以上に大変なことは、学校に通って学ぶことの意義を理解してもらうことだ。赤十字ボランティアは7歳の少女を学校へ行かせようと努力していた。赤十字ボランティアは少女に対し何度も説得を試みているが、少女は頑なに拒否している。少女の周りには、同じように学校に通わない子どもたちが楽しそうに走り回っていて、学校へ行かずとも何ら問題を感じていないように見える。不法居住地以外を知らない少女は別の世界があることを知らずにいるか、別世界は自分には全く手の届かない世界だと諦めているのかもしれない。あるいは、別の理由があるのかもしれない。多くの貧しい子どもたちは制服や靴がないという理由で就学率が低い。少女も制服や靴がないことが原因なのかもしれない。もし登校し始めたとしても、初潮をもうすぐ迎える少女にとって、生理用品が買えないことも不登校の理由になる。通常このような地域の女性は生理中は外出せずに汚れた服を纏ったままで過ごすか、古着を割いて作った生理用品を何度も洗って使うことが多い。

不法居住地内のある家庭の台所

赤十字ボランティア（左）と菅原看護師長（右）

菅原　直子　（すがわら　なおこ）

名古屋第二赤十字病院国際医療救援部看護師長。盛岡赤十字看護専門学校を卒業後、さいたま赤十字病院に勤務し、日本赤十字九州国際看護大学特任講師を経て、平成30年4月より現職。国内勤務の傍ら、Health Management Planning & Policyの修士号をイギリスで取得。東ティモール、アフガニスタン、パキスタン、ジンバブエ、イラク、ハイチへの長期派遣経験をもつ。

少女を含む他の子どもたちは、明らかに年齢の割に低身長で低体重が目立つ。収入のない家庭では、子どもに必要な栄養のある食事の摂取が困難だ。食事は主にトウモロコシの粉を熱湯で練ったものだけで、野菜や肉類、果物は贅沢品であり、めったに口にすることはない。

日赤の支援で建設されたトタン製簡易住居。支援を受けたことに感謝すると同時に、喜びにあふれる女性

ナミビア赤は、不法居住地で暮らしている収入のない母子家庭や、親がHIVや結核感染者である子どもたちを集めて、宿題をする場やおやつの提供も行っている。だが、ナミビア赤の活動ですべてが解決できるわけではない。本来の目的は、子どもたちが健康に育ち、教育を受け、将来自立した生活を営めるようにすることである。子どもたちならば、負のサイクルから抜け出せる希望があるからだ。赤十字ボランティアの一人の男性は、幼い頃に同じような貧しい境遇を経験したと話してくれた。彼は子どもへの支援の大切さを理解しているようだった。

ナミビア共和国は、豊富な天然鉱物による経済発展で中所得国として位置づけられているが、貧富の格差が激しい。格差を解消していく役割を担う子どもたちが、格差の底辺から一人でも多く這い上がれるように、ナミビア赤そしてボランティアの継続的な努力は続いている。そんなナミビア赤の活動を遠く離れた日本からも応援し続けたい。

菅原看護師ら日赤職員の訪問を歓迎し、ダンスを披露してくれるキッズクラブの子どもたち

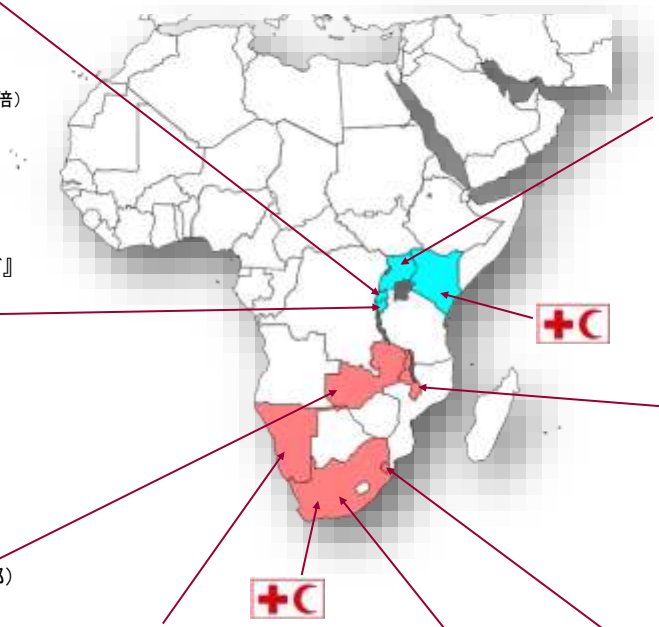
平成30年4月より

「産休サンキュープロジェクト」が支援する国・もの

写真左の少女のお母さんはHIVに感染し、療養中のため、収入がありません。HIVの治療や食糧配付の支援を受けています。写真右は産休サンキュープロジェクト担当の鹿島職員。(スワジランド)

これまで産休サンキュープロジェクトにお寄せいただいた資金はケニア地域保健強化事業に使用させていただきましたが、同事業が平成30年3月末日に終了しました。平成30年4月以降は、東アフリカ地域保健強化事業と南部アフリカ地域感染症対策事業に使用させていただきます。

①首都、②人口、③面積、④通貨、⑤言語、⑥〇〇国といえば　(①～⑤は外務省HPを参考)



ルワンダ

①キガリ
②1,210万人
③2.63万㎢（四国の約1.4倍）
④ルワンダ・フラン (1USD=約721.8RWF)
⑤キニアルワンダ語、英語、仏語
⑥ゴリラ観光、映画『ホテル・ルワンダ』

ブルンジ

①ブジュンブラ
②1,050万人
③2.78万㎢（日本の約1/3）
④ブルンジ・フラン (1USD=約1,555.1BIF)
⑤仏語、キルンジ語
⑥コーヒー、ギテカ(旧ブルンジ王国の都)

ウガンダ

①カンパラ
②4,149万人
③24.1万㎢（ほぼ本州大）
④ウガンダ・シリング (1USD=約3,645UGX)
⑤英語、スワヒリ語、ルガンダ語
⑥ゴリラ観光、主食がバナナ

マラウイ

①リロングウェ
②1,721万人
③11.8万㎢（日本の約1/3）
④マラウイ・クワチャ (1USD=約725MK)
⑤チェワ語、英語、各民族語
⑥ 煙草、マラウイ湖

サンビア

①ルサカ
②1,659万人
③752.61万㎢（日本の約2倍）
④ザンビア・クワチャ (1USD=約9.31ZMW)
⑤英語、ベンバ語、ニャンジァ語、トンガ語
⑥ヴィクトリアの滝、銅

ナミビア

①ウィントフック
②247.9万人
③82.4万㎢（日本の約2.2倍）
④ナミビア・ドル (1USD=約13NAD)
⑤英語、アフリカーンス語、独語、その他部族語
⑥ナミブ砂漠、オットセイ

南アフリカ

①プレトリア
②5,590万人
③122万㎢（日本の約3.2倍）
④ランド (1USD=約11.6ZAR)
⑤英語、アフリカーンス語、バンツー諸語の合計11語が公用語
⑥ワイン、喜望峰

スワジランド

①ムババネ
②134万人
③1.7万㎢（四国よりやや小さめ）
④リランゲーニ（複数形:エマランゲーニ） (1USD=約14エマランゲーニ)
⑤英語、スワティ語
⑥一夫多妻制、最後のアフリカ古王国

●上記8カ国の他、地域内の情報収集や赤十字社間の調整を行う国際赤十字・赤新月社連盟東アフリカ・インド洋準地域事務所と南部アフリカ準地域事務所を支援しています。

	支援対象国	活動内容
東アフリカ	ルワンダ	アニメ映画を通じた保健・防災教育
	ブルンジ	アニメ映画を通じた保健・防災教育
	ウガンダ	南スーダン難民の女性に対する生理用品一式の配付
南部アフリカ	ナミビア	キッズクラブ（学童保育）の運営、簡易住居の建設、HIV感染者及び貧困層の家庭に対する家庭訪問と訪問看護
	スワジランド	診療所の運営、HIV・結核の検査・カウンセリング・治療、HIV・結核感染者に対する食糧支援
	マラウイ	託児所の運営、生計支援（家畜の供与）、HIV感染者市民グループのピアエデュケーション
	南アフリカ	HIV予防・検査・治療、キッズクラブ（学童保育）の運営
	ザンビア	貧困層の生徒に対して学用品や衛生用品一式の配付、HIVに関するピアエデュケーション

母乳栄養のおすすめ

母乳は赤ちゃんの成長と発達にとって最適で理想的な栄養です。母乳には免疫物質がたくさん含まれているため、赤ちゃんの様々な病気の予防や下痢の予防に役立ち、発展途上国においては乳児死亡率を減少させるために大きく貢献しています。また、発展途上国のみならず日本や欧米のような先進国においても、生活習慣病のリスクを軽減させることが分かっています。赤ちゃんだけにとどまらず、母親にとってのメリットもたくさん報告されています。

母乳の良いところ

将来的に糖尿病、高血圧等の生活習慣病・肥満の発症を低下させます。

母と子の愛着形成に役立ち、児の精神的・感情的・社会的発達が促されます。

母乳によって腸管粘膜が保護されるため下痢・壊死性腸炎など消化管疾患にかかりにくくなります。

赤ちゃんの成長に合わせて必要な栄養が含まれています。

消化・吸収が良く、赤ちゃんの成長・発達にとって最適です。

スキンシップにより、母と子のつながりを強めます。

免疫物質が沢山含まれているため、中耳炎・気管支炎・尿路感染など様々な感染症にかかりにくくなります。また、免疫反応の発達を助けます。

乳幼児突然死症候群のリスクを減らします。

いつでもどこでも新鮮で清潔な母乳を与えられます。

子宮収縮を促し、産後の回復を早めます。妊娠前の体重に早く戻ります。

外出する時の荷物が少なくて済みます。経済的です。

乳がん、卵巣がん、子宮体癌等、一部の癌のリスクを軽減します。骨密度を上昇させます。

【情報提供：日本赤十字社　名古屋第一赤十字病院】

名古屋第一赤十字病院では、各種教室（母親教室）や外来（助産師外来・育児サポート外来・母乳外来）を通じて母乳育児を推進し、産後のお母さんと赤ちゃんを応援しています。

母乳は赤ちゃんにとっても、お母さんにとっても、最高の贈り物です。助産師は母乳育児成功のためにお手伝いします。困った時はお近くの助産師にお尋ねください。

名古屋第一赤十字病院　検索

産休サンキュープロジェクトに関するご意見・ご要望をお寄せください。特に、ニュースレターの内容については、参加企業・団体の皆様とのコミュニケーションツールとなりますので、ご提供いただける情報、どのような情報がお知りになりたいか、素朴な疑問からご感想まで、是非、皆様の声をお聞かせください。

また、ニュースレターのデータ配信をご希望される方もこちらまでご連絡ください。

日本赤十字社　国際部　開発協力課　産休サンキュープロジェクト担当

電話：03-3437-7089　　Eメール：sankyuthankyou@jrc.or.jp